

会議名:令和2年度 第2回 沼津市自転車活用推進協議会

開催日時:令和2年 11月 24日(火) 15時30分～17時00分まで

開催場所:沼津市水道部 3階会議室

公開・非公開の別:公開

傍聴者数:0人

会議次第

- 1 開会  
会長挨拶
- 2 議事
  - (1) 第1回協議会の振り返り
  - (2) 沼津市自転車活用推進計画素案について
    - ・実施施策について
    - ・計画期間および指標について
    - ・計画の推進について
  - (3) 今後のスケジュールについて
- 3 閉会



<出席者>

	氏名	所属	欠席・代理出席
1	中村 文彦	横浜国立大学 副学長 大学院都市イノベーション研究院 教授	
2	赤松 浩	東海旅客鉄道(株)沼津駅 駅長	
3	清水 修	沼津市バス協会 会長 (株東海バス 沼津営業所長)	
4	鈴木 智善	静岡県タクシー協会 沼津・三島支部長 (平和タクシー(株) 代表取締役)	
5	佐野 千代	沼津商工会議所 総務管理課長	
6	鈴木 拓	特定非営利活動法人 沼津観光協会 事務局長	
7	小野 剣人	特定非営利活動法人 カケルバイク 理事長	
8	米山 廣三	沼津市自治会交通安全会連合会 会長	
9	河本 秀昭	沼津市高校生自転車マナー向上委員会責任者 (加藤学園高等学校 生徒指導部長)	
10	小松 重成	国土交通省中部地方整備局 沼津河川国道事務所 道路管理課長	代理出席 梅村保全企画係長
11	稲葉 浩正	静岡県沼津土木事務所 企画検査課長	
12	渡辺 郁美	沼津警察署 交通第一課 交通安全教育係長	
13	栗原 浩一	公募委員	
14	中川 義広	公募委員	
15	椿 美邦	公募委員	

事務局：まちづくり政策課、建設デザイン調整室、スポーツ交流推進課、生活安心課

<次第>

1 開会

会長挨拶

2 議事

- (1) 第1回協議会の振り返り
- (2) 沼津市自転車活用推進計画素案について
  - ・実施施策について
  - ・計画期間および指標について
  - ・計画の推進について
- (3) 今後のスケジュールについて

3 閉会

・主な意見等について

(1) 第1回協議会の振り返り

- ・全体的に非常に丁寧に対応いただいたという印象である。対応を適切にいただいたということで整理したい。

(2) 沼津市自転車活用推進計画素案について

- ・資料2 P.9、青い矢羽根について、市民へマークの意味などの周知徹底が必要ではないか。
- ・資料2 P.10、太平洋岸自転車道における路面表示や案内看板は1回も見ることがないが、どこについているのか。
- ・資料2 P.11、ゾーン30は学校周辺にあるが、意味を知らない人が多い。
- ・市民に本当に理解していただいているのかどうかという課題がある。周知を進めていくことも重要だが、どのように理解してもらうか、キャンペーンや広報と連動する形でやっていくことがご意見の趣旨だと思う。
- ・資料2 P.9、沼津土木事務所は沼津土肥線の矢羽根を実際に施工した側であるが、ホームページやパネル展でPRしているものの、まだ周知が足りないと反省している。
- ・資料2 P10、太平洋岸自転車道における路面表示や案内看板は先月整備したばかりである。幅が15cm、高さ45cmと小さい。狩野川放水路の交差点から狩野川左岸、伊豆長岡へ向かう路線の左側にある。見にくい、自転車で走っていればわかると思う。今後PRしていきたい。
- ・資料2 実施主体の内訳に、「関連事業実施主体」「関連事業者」という表現がある。事業実施主体というと施行する人だと思う。矢羽根のところは警察とあるが、警察は実施事業主体ではないので、整理する必要があるのではないかと。
- ・道路管理をやっている県、市、国、交通管理をやっている警察、他の事例でもいろいろと書かれていると思う。それらを参考にしながら双方関連の方が納得いくようにし、行政機関や民間事業者の関わりを整理する。
- ・運転免許更新の講習のときは、神妙になって一生懸命学ぶが、それは車の運転のためである。同様に、運転免許更新の講習のときに、自転車に関してはこういう道路標示が入っているなどの情報提供があるとよいのではないかと。また、子どもたちへの交通安全教育などの場面で、周知の機会は多々あるので、参考に検討してほしい。
- ・資料2 P4、前回発言した自転車が好きになることが大事というところを取り入れていただき、有り難く思う。自転車文化という崇高な感じにさせていただいて素晴らしいと思った。
- ・資料2 P.19~20、目標3の「おでかけサイクリングプロジェクト」だけ具体案がなく、イメージがつかめない、今後を期待する。
- ・資料2 P15、サイクル&バスライドを大平でやっているが、あまり利用がない状況である。自動車からサイクル&バスライドに誘導するにはインセンティブが必要だと思う。
- ・資料2 P9、矢羽根が、場所によっては、幅員が狭いところにも設置されていると感じる。バス事業者としては、運転手もストレスを感じるし、サイクリストもストレスを感じているのではないかと。道路を拡張していくとか、どこか優先的に対象を絞ってやったほうが、結果的にサイクリストも安全・安心に走行することができるし、運転手もストレスがないのではないかと。
- ・資料2 P15、厚木市は地域公共交通会議の中で、サイクル&バスライドは場所によってバス事業者が用意したり、民間が用意したり、市役所が用意したりするなど、それを明確に計画として位置づけ、市の広報で周知した。なかなか自動車からの転換が図られないかもしれないが、積極的にバスの本数が多いバス停までは自転車で来てもらい、そこからバスに乗ってもらうことについて市を挙げてアピールした。

- ・サイクル&バスライドについては、日本中で事例があるが、これで一体どうしたいのか、誰にどう理解してほしいのかというところの最後のプッシュが足りないことが多い。自転車の活用としても位置づけるし、バスの利用としても位置づけるように市のほうでうまくハンドリングしていただきたい。
- ・矢羽根の青の線があるから絶対安心ということでは必ずしもないので、自動車利用者の方にも、ここは自転車が通るということを意識してもらわなければいけない。矢羽根について、道路利用者にどう理解してもらわなければいけないかというところまで整理し、課題がいくつかあることは共通認識としていただきたい。矢羽根についてはよく整理し、矢羽根を引いたからもうよいということにならないようにしていただきたい。
- ・自転車のサイクリストと街乗りともに沼津駅の観光案内所で情報提供いただいて、そこからスタートする方がかなりいるのが現状である。荷物の預かりだけでなく、自転車を預けて、自転車に乗った後に観光する方もいる。
- ・自転車で観光地に行く場合、観光案内所に来ても観光客が自転車で走ることのできる道路について渡せる資料がないのが現状である。参考資料 観光アンケートでは、ウェブサイトで情報を集めるとあるが、観光案内所での口頭説明や紙媒体の資料を見るという方が多いのが現状である。観光案内所での自転車に関する情報提供についても、検討する必要があるのではないかと。
- ・資料2 P.18、沼津市中心市街地まちづくり戦略と連動したとあるが、ぜひ互いの計画が整合するようしてほしい。その際、警察、道路管理者、鉄道などいろいろな関係機関があるので、早めに協議していただきたい。
- ・資料2 P25、指標のアウトカムやアウトプットは、よく混同したり、片方しか入っていなかったりするが、両方記載される整理の仕方はよい。
- ・指標を数値で具体的に表すのはよいが、基準年がばらついている。
- ・資料2 P25、1番の自転車事故発生件数は令和7年の中間時点9.7となっているが、この妥当性やこの数値はこう算出したという納得できる説明を検討する必要がある。
- ・資料2 P25、3番の交通安全教室の回数だが、令和元年は368で、中間が370、次が380ということだが、絶対的に確保できていた小中学校、幼稚園等での交通安全教室の数が減っていくということであれば、今後の成果を見るために。そこを2つに分けて表示されたほうがよいのではないかと。回数が減っているのに増えているとか、増えているのに減っているなど、数字がおかしくならないように、これまでの取り組みの枠と新しい取り組みの枠ということで評価をするとよいのではないかと。
- ・指標の根拠がわかるような説明や資料を作り、どういう根拠でこういう数字を出しているかがわかるようにすべき。

### 3. 閉会

以上